

# 委員会の動き

## 総務委員会

★水道事業会計予算について、高度浄水施設整備事業は、巨額の費用を伴うが、水道料金への影響はどの質疑に対し、平成14年度以降料金改定がなされておらず、決算状況は厳しい状況であり、22年度中に検討したいとの答弁があった。

★高齢者交通アドバイザーについて、2年を経過して1年延長した理由はどの質疑に対し、この事業は、2カ年計画で対象者の訪問を3月下旬に終了する。

しかし、依然として交通事故死者数に対し、高齢者の占める割合が高いため、さらに1年、交通安全の啓発を推進する必要があると考え延長したとの答弁があった。

★地方税滞納整理機構への移管については、毎年40件を移管し、今年度は年度途中であるが、4031万1100円を移管して、12月末現在で2760万7078円、徴収率68・5%と成果を上げているとの説明があった。

★市街化区域農地は、宅地並み課税で高額である。県下20市町の中で、本市の課税レベルはどの質疑に対し、課税標準の特例で通常の宅地の3分の1で課税されている。

各市町とも、総務省が定めている評価基準に基づき課税しており、同一であるとの答弁があった。

## 民生文教委員会

★付託された議案13件は原案可決、陳情1件・請願1件は不採択、陳情2件は継続審査と決した。

★特定健診の受診率と向上対策についての質疑に対し、20年度は、22・06%であり、今後、市民体育館などの大規模施設で多項目を一度に受診できるように改善し、制度周知の講座を行うなど、啓発にも力を入れ、内容を充実して取り組むとの答弁があった。

★伊予市シルバー人材センター補助金の大幅増額と今後の見通しについての質疑に対し、主な収入源の受託事業は、18年度をピークに徐々に減少し、繰越金も今年度でなくなる見込みである。市の補助金と同

額を国が出す制度を最大限活用した。

今後は、新しい収入が見込める分野を開拓するともに、支出のカット等も検討したいとの答弁があった。

★学校給食費の燃料費を市が負担することで安くなるのかとの質疑に対し、中山・双海は、食材費等の値上がり、また地産地消ということもあり、値上げの話も出ていたが現状維持で委員会の了承を得た。

伊予地区では、給食費プラス給食運営費として5円ないし10円徴収していた分を22年度から徴収しない方向へ進んでいるが、まだ各学校の運営委員会が開かれていないので、最終決定ではないとの答弁があった。

## 産業建設委員会

★松くい虫防除事業委託料について、実施予定箇所及び空中散布の時期の質疑に対し、空中散布については、伊予地区では195鈴予定、地上散布については、双海八景山の展望台付近の松林、1・4鈴を予定し、時期は松くい虫の幼虫が出る時期に合わせ、5

月下旬から6月上旬で例年しているとの答弁があった。

★中山間地域等直接支払事業費について、第3期対策がまだ固まっていない中、点している部分も含め対象となるよう要望できないかとの質疑に対し、第3期については、

まだ結論は出ていないが、農用地保全に向けた共同取組活動が行われることを条件に、1団地1鈴未満の飛び地等であっても、1団地の農用地として取り扱うことができる取組案が示されているとの答弁があった。

★特産果樹高品質生産体制整備事業費補助金等の事業種目についての質疑に対し、果樹高品質生産体制整備事業では、果樹の育成袋の購入に対しての補助と高齢農家などが管理する栗の選定作業の受委託に對しての補助を行っている。

また、特産果樹優良品種導入事業では、特産品果樹の優良品種20品種への更新、または導入に係る苗木の補助を、土づくり体制整備事業では、堆肥の購入に対して助成するもので21年度と変わっていないとの答弁があった。

## 編集後記

新緑の季節になり、一段と忙しい時期になったが、私は広報委員になって良かった。他の委員さんや事務局に迷惑を掛け通し、何もわからず入り、1年経ってようやく役割や話が見えてきた。委員長、副委員長も、自分たちだけで、事務局に余り負担を掛けられないように努力している姿は、感心させられる。

このことが議会全体の姿であればすばらしいと思う。初心に返り、住民の声を聞き、住民のための代弁者であること、発言した言葉の重さ、言葉の大事さがわかっていないところがありがち。自分になりものは他の人に教えてもらい、楽しい1年であった。

人生は隠された無限を探し出す宝探しであるという言葉を思い出した。

文責 武智 実

議会広報調査特別委員会	委員長	武智 邦典
副委員長	日野 猛仁	
委員	北橋 豊作	
委員	高井 洋一	
委員	門田 裕一	
委員	武智 実	
委員	水田 恒二	